

(様式第 10)

近大総発第 89 号
平成 26 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 近畿大学
理事長 清水 由洋 (印)

近畿大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3 丁目 4 番 1 号
氏 名	学校法人 近畿大学 理事長 清水 由洋

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

学校法人 近畿大学 近畿大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 3 7 7 番地の 2 電話(072) 366-0221
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ (無)
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 糖尿病・内分泌内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 神経内科 6 腫瘍内科 7 呼吸器内科 8 腎臓内科 9 心療内科 10 緩和ケア内科 11 漢方内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 小児外科 3 脳神経外科 4 心臓血管外科 5 整形外科 6 形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 矯正歯科 2 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	933床	933床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	442人	109人	458.4人	看 護 補 助 者 (診療補助員)	116人	診療エックス線 技師	0人
歯 科 医 師	11人	5人	11.2人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査技 師	91人
薬 剤 師	56人	3人	57.2人	作 業 療 法 士	3人	衛生検査技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	10人	そ の 他	0人
助 産 師	28人	0人	28人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	889人	22人	905.3人	臨 床 工 学 技 士	20人	医療社会事業従 事者	6人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	18人
歯科衛生士	4人	4人	7人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	418人
管理栄養士	12人	1人	13人	診 療 放 射 線 技 師	51人	そ の 他 の 職 員	98人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	19人	眼 科 専 門 医	16人
外 科 専 門 医	52人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	7人
精 神 科 専 門 医	7人	放 射 線 科 専 門 医	24人
小 児 科 専 門 医	18人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	14人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産 婦 人 科 専 門 医	11人	救 急 科 専 門 医	18人
		合 計	224人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	725.0人	3.1人	728.1人
1日当たり平均外来患者数	1564.4人	98.5人	1643.5人
1日当たり平均調剤数	3538.1 剤		
必要医師数	169人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	45人		
必要(准)看護師数	420人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要					
集中治療室	204.20 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	病床数	10床	心電計	(有)・無		
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無		
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無		
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 17.29 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	1	床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 32.03 m ² [共用室の場合] 共用する室名							
化学検査室	622.88m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 生化学自動分析装置日立7700型、 生化学自動分析装置日立LABOSPECT008型					
細菌検査室	134.12m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 血液培養装置バクテアラート3D、 COBAS Taqman48、嫌気ワークステーション					
病理検査室	155.87m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 免疫染色装置ベンタナNX、 遺伝子増幅検出装置RD-100i					
病理解剖室	101.56m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 解剖実験台					
研究室	4104.7m ²	鉄骨造+鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 超音波画像診断装置、透過電子顕微鏡、 高速液体クロマトグラフ質量分析計、 共焦点レーザー走査型顕微鏡					
講義室	2042.22 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	10	室	収容定員	1,869	人
図書室	1557.83 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	5	室	蔵書数	164,000	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	73.52%	逆紹介率	51.08%
算出根拠	A: 紹介患者の数		21,652 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,826 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,126 人
	D: 初診の患者の数		30,982 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	6人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	206人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	1人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	9人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに限る。)	3人
パクリタキセル腹腔内反復投与療法 胃切除後の進行性胃がん(腹膜に転移しているもの、腹腔洗浄細胞診が陽性であるもの又はステージII若しくはIIIであって肉眼型分類が3型(長径が八センチメートル以上)のものに限る。)若しくは4型であるものに限る。)	0人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	4人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血小板凝集能モニタリング	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 冠動脈ステント留置術後に抗血小板薬を服用している症例に対して、患者および家族に説明・同意の上でさまざまな血小板機能検査法を用い血小板凝集能抑制効果を評価し、抗血小板薬抵抗性を示すメカニズムや原因を明らかにすることで、将来的に個々の症例に対して至適な抗血小板療法を選択が可能となることを目指している。			
医療技術名	心臓サルコイドーシスにおけるPET診断	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 FDG-PETを用いて心臓サルコイドーシスの炎症部位診断を行う。			
医療技術名	持続的血糖モニターを用いた冠動脈疾患の患者管理	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 冠動脈疾患合併糖尿病患者に、皮下にセンサーを留置し持続的に血糖値をモニターする。			
医療技術名	運動負荷心エコーを用いた虚血部位の診断	取扱患者数	334人
当該医療技術の概要 運動負荷に心エコーを組み合わせ、心筋虚血を診断する。心エコーを用いて運動負荷前後の左室壁運動を比較して、心筋虚血を壁運動の低下部位から診断する。			
医療技術名	OCT(Optical Coherence Tomography:光干渉断層法)による冠動脈病変の描出	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 OCTは血管内超音波検査(IVUS)と比べて解像度が約10-15 μ mとIVUSの約10倍の高い分解能を有し、IVUSの弱点である石灰化や血栓などの評価に優れている。冠動脈疾患発生のメカニズムの解明や薬剤溶出性ステント治療後の評価に役立つ事が期待されている。			
医療技術名	冠動脈石灰化病変に対するRotablator治療	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 微少のダイヤモンド粒子でコーティングされた先端チップ(Burr)とそのBurrを回転させる駆動シャフトから構成され、Burrを15~19万回転/分で高速回転することにより、アテローム性プラークを切削する Deviceである。			
医療技術名	心房細動アブレーション	取扱患者数	113人
当該医療技術の概要 心房細動を発症する原因となる不整脈源性を有する肺静脈の同定、カルトシステムによる3次元マッピングシステムとスマートタッチシステムによる安全なアブレーション、さらには多点同時マッピングシステムによる心房細動の機序解明などを行い、心房細動の根治治療を行っている。			
医療技術名	植え込み型除細動器ならびに心臓細動期療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 致命的不整脈のリスクを有する患者や薬物抵抗性の心不全と心室の非同期的収縮を有する患者に対する植え込み型の治療機器			
医療技術名	肺高血圧症における運動負荷心エコーの有用性	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肺動脈性肺高血圧症の患者に運動負荷心エコーと運動負荷右心カテーテル検査を同時に行い、各種血行動態のパラメーターを比較することにより運動負荷心エコー検査の有用性を検証する。また、運動負荷時の血行動態がその後の予後にどのように影響するかもあわせて検討する。			
医療技術名	糖脂質抗体および糖脂質複合体抗体の測定	取扱患者数	3000人
当該医療技術の概要 糖脂質抗体は、ギラン・バレー症候群の診断に不可欠な抗体であり、主にELISA法によって測定を行っている。糖脂質複合体抗体は、当院当科オリジナルの抗体であり、独自の手法で測定を行っている。			

医療技術名	気管支充填材(EWS)による気管支充填術(気管支塵孔閉鎖術)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 従来の治療方法で治癒できない難治性気胸や気道出血に対して、シリコン製の気管支充填材(EWS: Endoscopic Watanabe Spigot)を気管支鏡を用いて気管支内部から充填して治療する方法。			
医療技術名	PMX-DHP (polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 敗血症、急性呼吸促進症候群(ARDS)、特発性肺線維症(IPF)の急性増悪などに対して、ポリミキシンB固定化線維カラムを用いた直接血液灌流法にてエンドトキシンを除去し、酸素化の障害を改善する治療方法。			
医療技術名	非侵襲的人工呼吸(NPPV)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 急性呼吸促進症候群(ARDS)や特発性肺線維症(IPF)の急性増悪など、通常は挿管による人工呼吸療法を行うが、管理下で挿管によらないマス換気での人工呼吸療法を行っている(Bi-PAP VisionまたはV60を使用)。挿管による人工呼吸管理に比較して、人工呼吸関連肺炎の発症を低下させることができる可能性が期待されている。			
医療技術名	がんペプチドワクチンによる食道癌術後補助免疫療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 食道癌特異的ペプチドワクチンを用いた術前治療後の病理学的リンパ節転移陽性根治切除進行食道癌に対し、HLA-A24:02の症例にはワクチンを20回投与、それ以外の症例は再発まで無治療で経過観察する。			
医療技術名	cT4局所進行食道癌に対する術前50Gy化学放射線療法とplanned salvage surgery	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 手術をしても切除面に癌の遺残の可能性のある症例に対して根治量の化学放射線療法を行い、切除可能と判断すれば積極的に手術を追加してSalvegeを行い根治を目指す。			
医療技術名	頸部食道癌に対する喉頭温存術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 従来は喉頭合併切除が標準術式であった頸部食道癌に対して、化学放射線療法による抗腫瘍効果と我々の考案した喉頭温存術式および嚥下機能補助術式により、「声を残して癌を治す」ことを目指す集学的治療戦略である。			
医療技術名	気管浸潤進行食道癌に対する縦隔気管瘻(Grillo)術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 頸胸境界部で縦隔内の気管に浸潤する食道癌は切除不能とされ、根治的放射線療法で腫瘍が消失しない限りは治療法がないとされている。しかし、腫瘍が完全に消失する確率は僅か10%前後である。Grilloという縦隔気管瘻手術は前記患者に対しても根治が望める唯一の方法であるが、極めて難易度が高く、リスクが高いことから避けられてきた。我々はこれを克服する術式を考案し、患者のためにリスクをかけてこの唯一の治療法にかけて根治を目指している。			
医療技術名	StageII/III進行食道癌に対する新規DCF術前化学療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 JCOG9907試験の結果を受けて現在日本ではStageII/III食道癌に対する標準治療は術前化学療法+手術とされている。しかし、従来のFP化学療法は奏効率も36%と低く十分な効果は期待できず、特にStageIIIでは上乗せ効果は認められていない。一方、FPにDocetaxelを加えた新規レジメンの奏効率は60-70%と高く、StageIIIに対する有効性も含め生存率向上に大きく寄与すると考えられ、現在積極的に適応して成績向上を図っている。			
医療技術名	FDG-PETに基づいた進行食道癌治療戦略の個別化	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 術前化学療法が標準化されたが全員に有効とは限らない。我々はFDG-PETの集積値:SUVmaxが収容量ならびに予後と強い相関があることを明らかにした。切除可能症例であっても、PETでFDGの集積がLNに認めるPET-N(+)は極めて予後不良で術前化学療法の適応である。一方PET-N(-)であれば70%の5生率が期待できる。しかしその中でも主腫瘍におけるFDGの集積値が6.02以上では遠隔再発を来しやすく予後不良で術前化学療法が必要である。このようにPETによる予後予測を基に術前治療の個別化を行い、治療の質向上を図っている。			
医療技術名	漿膜浸潤陽性進行胃癌に対するPaclitaxel腹腔内化学療法+3剤併用術前化学療法の有用性	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 漿膜浸潤陽性胃癌は腹膜播種再発の高危険群である。つまり腹膜播種を制御することが最大の鍵である。そこで腹腔内化学療法により腹腔内遊離癌細胞や腹膜播種細胞を、更に3剤全身化学療法で原発腫瘍およびLN転移巣を併せて攻撃することで強力に癌細胞を死滅させ、奏効後に手術を追加して根治を目指す治療である。			
医療技術名	75歳未満の4型または大型3型胃癌に対する術前化学放射線療法の有用性	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 4型または大型3型胃癌は強力に術前化学療法を行ったとしても原発巣の抗腫瘍効果はそれ程高くなく、術後の腹膜播種再発の可能性が高く、予後不良である。そこで原発腫瘍を強力に抑え込むことで腹腔への進展を抑制し、予後改善を図る目的で術前化学放射線療法を導入して成績向上を図っている。日本では胃癌に対して化学放射線療法を用いた初めての臨床試験である。			

医療技術名	75歳以上の4型または大型3型胃癌に対する術前化学放射線療法の有用性	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 4型または大型3型胃癌は腹膜播種再発高危険群であるが、75歳以上の高齢者に対しては臓器機能低下から強力な化学療法の上乗せは困難である。しかし手術単独ではほとんど治癒が望めないことも明らかである。そこで局所治療である放射線を追加し、局所制御効果を高めつつ、全身の副作用は抑えて治療完遂率を上げ、成績向上を図っている。			
医療技術名	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈投与及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内投与及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 漿膜浸潤陽性胃癌は腹膜播種再発の高危険群である。つまり腹膜播種を制御することが最大の鍵である。そこで腹腔ポートを留置し腹腔内化学療法と全身化学療法を併用することにより腹腔内遊離癌細胞、原発腫瘍ならびにLN転移巣を併せて攻撃することで癌細胞を死滅させた後に手術を追加し、その後再度腹腔内化学療法と全身化学療法を追加することにより根治を目指す治療である。本治療法は既に先進医療として厚生労働大臣の告知を受けている(先進医療告示番号47)。			
医療技術名	functional MRI,PET統計解析によるてんかん焦点診断	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 MRIにより脳機能マッピングを行い、FDG-PETによる焦点診断を行うことにより摘出領域を決定する。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 てんかん焦点の定まらない難治性てんかんに対して迷走神経刺激電極を留置する治療方法である。			
医療技術名	重度痙縮に対するバクロフェン髄腔内投与療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 薬剤治療困難の痙性麻痺例に対して行う治療法である。			
医療技術名	悪性神経膠腫に対するギリアデル脳内留置治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 カルムスチン(BCNU)含有徐放性製剤であり、摘出腔に留置することで標準治療法開始までの治療空白期から局所治療が可能となる方法である。			
医療技術名	悪性神経膠腫に対する硼素中性子捕捉療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 腫瘍細胞に選択的に硼素を集積し、中性子線照射をすることで発生する α 粒子線によって腫瘍細胞のみを選択的に破壊する粒子線治療法である。			
医療技術名	超急性期頭蓋内主幹動脈閉塞例に対する再開通療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 t-PA静注療法無効例、非適応例の頭蓋内主幹動脈閉塞例に対して、脳カテーテル治療によって血栓回収を行い血流の再開通をえる治療法である。			
医療技術名	クリップ困難な動脈瘤に対する血流改変治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 巨大脳動脈瘤や解離性脳動脈瘤破裂に対して高流量バイパス術を行い、血栓化を得たり、瘤破裂を防止する治療法である。			
医療技術名	経静脈血栓溶解療法中における経頭蓋トブラ脳血流モニタリング兼溶解療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 中大脳動脈閉塞による超急性期脳梗塞に対してt-PA(組織プラスミノゲンアクチベーター)全身投与中における持続脳血流測定による、塞栓子振動による再灌流促進治療			
医療技術名	拡張型心筋症または虚血性心筋症による重症心不全に対する左室形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 重度の心不全を伴った心筋症に対し、僧帽弁形成術と左室形成術を合併施行することにより、治療困難例に対しQOLを改善させることが可能。			

医療技術名	大動脈ステントグラフト	取扱患者数	74人
当該医療技術の概要 カテーテルによる血管内アプローチで大動脈瘤、大動脈解離に対し低侵襲的治療が可能。			
医療技術名	末期重症心不全に対する補助人工心臓の植込み	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 あらゆる内科的治療や外科的治療でも効果がない末期重症心不全患者に対しては心臓移植が唯一の治療法であるが、ドナー数や移植タイミングに大きな制約があり、移植までの橋渡しの治療としての役割が大きい。			
医療技術名	MICS(Minimally Invasive Cardiac Surgery:低侵襲心臓手術)	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 ①僧帽弁疾患 ②大動脈弁疾患 ③先天性心疾患 ④不整脈 に対し、小切開により直視下またはVideo Assist下で低侵襲に心臓手術を行う。			
医療技術名	歯根部利用人工角膜手術(OOKP)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 OOKPは歯根部利用人工角膜の略。この方法は、重症のスチーブンス・ジョンソン症候群などでの視力矯正の最後の手段とされている方法で、患者自身の犬歯の根部を人工角膜光学部の固定に利用する手術方法。			
医療技術名	人工中耳MVSの伝音難聴及び混合性難聴に対する有効性及び安全性の検証試験	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 伝音難聴及び混合性難聴患者に対する人工中耳MVSについて、各被験者の有効性及び手術時からの安全性を検証した。			
医療技術名	頭頸部表在癌に対する経口的内視鏡切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 内視鏡の進歩により施行されるようになった頭頸部表在癌に対する低侵襲手術			
医療技術名	早期喉頭癌に対する経口的レーザー手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 標準治療である放射線治療と同等の治療成績、医療費低減、低侵襲である治療			
医療技術名	早期下咽頭癌に対する経口的手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 経口的に施行可能な低侵襲手術			
医療技術名	ロボット支援下子宮頸がん・体がん根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci Si)を用いた子宮頸がんおよび体がん根治術である。従来の開腹術に比較して低侵襲であり、排尿機能障害などの術後合併症も少なくなるという利点がある。癌の根治性についても良好な結果が得られるものである。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	83人
当該医療技術の概要 頭頸部腫瘍、頸部食道癌、あるいは前立腺癌などに対して照射強度を最適に変調したビームを用いる高精度放射線治療。通常照射法に比較して合併症の低減と局所制御の向上が示されている。			
医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳あるいは体幹部の原発性あるいは転移性腫瘍に対して多方向から高精度に照射し、1回大線量を数回で照射する高精度放射線治療。高い局所制御率が示されている。			

医療技術名	125-I永久挿入密封小線源治療	取扱患者数	64人
当該医療技術の概要 比較的 low リスクの前立腺癌に対して125-I線源を永久挿入する前立腺癌に対する根治的治療法。高い局所制御率が示されている。			
医療技術名	腰痛に対するパルス高周波熱凝固法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 腰痛椎間板関節症ならびに仙陽関節性腰痛に対して、X線透視下に専用の針を刺入し、パルス高周波による熱凝固を行っている。			
医療技術名	経皮的髄核摘出術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 頸部、腰痛の椎間板ヘルニアに対して、専用のDecompressorを用いて、低侵襲に髄核の摘出を行っている。			
医療技術名	顎顔面手術におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ナビゲーション支援によって、より正確で安全な手技となり、眼窩手術や顎変形手術の精度が高まっている。			
医療技術名	難治性腸管GVHDに対する経口ベクロメタゾン内服治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後の腸管GVHDに対して、ステロイドの全身投与で効果がない場合に、非吸収性のベクロメタゾンの経口内服により、副腎皮質ステロイドホルモンの全身投与の副作用なしに腸管GVHDの治療を行う。			
医療技術名	難治性GVHDに対するミコフェノールモヘチル(MMF)治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 副腎皮質ステロイドホルモンに抵抗性のGVHDを呈する患者に対して、ミコフェノールモヘチルの投与を行う。			
医療技術名	小児期および先天性心疾患に関する高周波カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 全身麻酔下で三次元マッピング装置を用いて先天的な不整脈器質および術後の生じた不整脈器質を同定し、高周波エネルギーでカテーテル治療を行っている。			
医療技術名	植込み型除細動器移植術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 先天性不整脈器質(QT延長症候群、カテコラミン誘発性多形心室頻拍)および先天性心疾患術後の心室頻拍に植込み型除細動器の移植を行なった。			
医療技術名	セルセプト薬物モニタリングにより小児ネフローゼ症候群の治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 セルセプトの薬物血中濃度測定により投与量を調節して、小児難治性ネフローゼ症候群を行った。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	36人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	54人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	53人	・原発性胆汁性肝硬変	32人
・全身性エリテマトーデス	153人	・重症急性膵炎	26人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	34人
・再生不良性貧血	20人	・混合性結合組織病	28人
・サルコイドーシス	45人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	23人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	125人	・網膜色素変性症	30人
・特発性血小板減少性紫斑病	52人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	34人	・肺動脈性肺高血圧症	12人
・潰瘍性大腸炎	111人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	13人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	18人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	13人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	21人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	10人	・脊髄性筋委縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	184人	・球脊髄性筋委縮症	2人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	27人
・後縦靭帯骨化症	25人	・肥大型心筋症	8人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	15人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	13人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	28人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	15人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	42人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 総合評価加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ データ提出加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 救命救急入院料
・ 特定機能病院入院基本料	・ 特定集中治療室管理料
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 新生児特定集中治療室管理料 1
・ 救急医療管理加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 超急性期脳卒中加算	・ 小児入院医療管理料 2
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・
・ 診療録管理体制加算	・
・ 急性期看護補助体制加算	・
・ 看護職員夜間配置加算	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算	・
・ 感染防止対策加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊婦管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・ 救急搬送患者地域連携受入加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

No.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・院内トリアージ実施料	・画像診断管理加算2
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層
・地域連携診療計画管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携管理料	・外傷全身CT加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・大腸CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・運動器リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・植込型心電図検査	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・イタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・胎児心エコー法	・透析液水質確保加算
・ヘッドアップティルト試験	・一酸化窒素吸入療法
・皮下連続式グルコース測定	・歯科技工加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

No.2

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・輸血管理料I
・経皮的冠動脈形成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・内視鏡手術用支援機器加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料(I)
・ H° -スーマー移植術及び H° -スーマー交換術	・麻酔管理料(II)
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・放射線治療専任加算
・両心室 H° -スーマー移植術及び両心室 H° -スーマー交換術	・外来放射線治療加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・両室 H° -シング機能付き植込型除細動器移植術及び両室 H° -シング機能付き植込型除細動器交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・補助人工心臓	・定位放射線治療
・経皮的大動脈遮断術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ダメージコントロール手術	・病理診断管理加算
・体外衝撃波胆石破碎術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・
・同種死体腎移植術	・
・生体腎移植術	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	18回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34 例 / 剖部検 5.20%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腫瘍内低酸素イメージングに基づく高精度放射線治療の開発	西村 恭昌	放射線医学(放射線腫瘍学部門)	1,200,000	補委 日本学術振興会
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	西村 恭昌	放射線医学(放射線腫瘍学部門)	15,487,000	補委 厚生労働省
放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	西村 恭昌	放射線医学(放射線腫瘍学部門)	200,000	補委 国立がん研究センター
次世代型コンパニオン診断薬の創出に向けた橋渡し研究	西尾 和人	ゲノム生物学	38,264,000	補委 厚生労働省
新しい薬物療法の導入とその最適化に関する研究	西尾 和人	ゲノム生物学	6,000,000	補委 厚生労働省
未治療原発不明癌に対するDNAチップを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う無作為化第II相試験	西尾 和人	ゲノム生物学	3,000,000	補委 厚生労働省
乳がんのTKI感受性・耐性を規定する分子機構の解明における遺伝子解析・検体保存	西尾 和人	ゲノム生物学	4,545,455	補委 科学技術振興機構
FGF3遺伝子増幅による肝細胞癌ソラフェニブ治療の効果予測	西尾 和人	ゲノム生物学	13,800,000	補委 日本学術振興会
ストレス関連疾患における神経-マスト細胞相互作用の増強: 接着分子CADM1の関与	伊藤 彰彦	病理学	1,200,000	補委 日本学術振興会
エキシマレーザー照射による癌偽足突起の選択的単離法の樹立	井上 敬夫	病理学	1,500,000	補委 日本学術振興会
緑茶が及ぼす脳外傷局所に出現する神経幹細胞の成熟、分化への影響に関する研究	佐藤 隆夫	病院病理部	1,400,000	補委 日本学術振興会
肺気腫の新規発症機序: 接着分子CADM1の細胞内断片による肺胞上皮アポトーシス	萩山 満	病理学	1,600,000	補委 日本学術振興会
内耳に発現するmiRNAの分子構造と生理機能の解析	土井 勝美	耳鼻咽喉科学	300,000	補委 日本学術振興会
新しい人工内耳(EAS)に関する基礎的、臨床的研究	土井 勝美	耳鼻咽喉科学	700,000	補委 厚生労働省
前庭機能異常に関する調査研究	土井 勝美	耳鼻咽喉科学	800,000	補委 厚生労働省
主要組織適合遺伝子複合体領域の1型糖尿病遺伝子の同定と機能解析	川畑 由美子	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	600,000	補委 日本学術振興会
自己免疫疾患における標的臓器決定因子の解明と治療への展開: 1型糖尿病と膵β細胞	池上 博司	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,000,000	補委 日本学術振興会
1型糖尿病の組織特異的発症機序に関わる遺伝基盤の解明と発症予防・治療への応用	能宗 伸輔	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	800,000	補委 日本学術振興会
2型糖尿病発症因子解明のための戦略: 機能分割と再統合	馬場谷 成	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,200,000	補委 日本学術振興会
1型糖尿病遺伝子解析による免疫制御機構の解明と発症予防への展開	廣峰 義久	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,900,000	補委 日本学術振興会
ヒト皮質脳波信号処理に基づく運動・言語の高次脳機能発現メカニズムの研究	加藤 天美	脳神経外科学	1,400,000	補委 日本学術振興会
学校における心停止の疫学調査	西内 辰也	救急医学	1,500,000	補委 日本学術振興会

認知症臨床研究・治験ネットワークの構築とネットワークを利用した認知症臨床研究の推進に関する研究に関する研究	石井 一成	早期認知症センター	1,000,000	補委	国立長寿医療研究センター
レビー小体型認知症におけるアミロイド沈着、糖代謝病態解明	石井 一成	早期認知症センター	500,000	補委	日本学術振興会
吸収性ナノファイバーを応用した自家移植モデルにおける耳介形状軟骨の再生誘導	磯貝 典孝	形成外科学	1,600,000	補委	日本学術振興会
肝の造影多時相CT検査における医療被ばく線量と造影剤量の最適化	兵頭 朋子	放射線医学(放射線診断学部門)	500,000	補委	日本学術振興会
新規作用機序をもつ高血圧症治療薬開発の基礎的研究	高橋 英夫	薬理学	1,400,000	補委	日本学術振興会
HMGB1を標的分子とする脳外傷・脊髄損傷の治療法開発	高橋 英夫	薬理学	300,000	補委	日本学術振興会
DAMP複合体をターゲットにした外科侵襲時の新たな臓器障害制御システムの開発	高橋 英夫	薬理学	500,000	補委	日本学術振興会
SIRSと敗血症病態の重症度を判定するためのコブハーフ診断検査法の確立と臨床応用研究	高橋 英夫	薬理学	2,500,000	補委	厚生労働省
近赤外線スペクトロスコピーによる気分障害におけるリチウム反応性、自殺傾性の評価	白川 治	精神神経科学	500,000	補委	日本学術振興会
ストレス応答分子としてのRhoファミリータンパク質の機能と関節変性反応への関与	福田 寛二	リハビリテーション医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
人工多能性幹(iPS)細胞由来スキャフォールドフリー三次元人工組織による骨軟骨再生 一有効性と安全性における間葉系幹細胞との比較検討一	福田 寛二	リハビリテーション医学	100,000	補委	日本学術振興会
多様性幹細胞からの間葉系幹細胞の分化誘導と評価	寺村 岳士	高度先端総合医療センター(再生医療部)	800,000	補委	日本学術振興会
人工多能性幹(iPS)細胞由来スキャフォールドフリー三次元人工組織による骨軟骨再生 一有効性と安全性における間葉系幹細胞との比較検討一	寺村 岳士	高度先端総合医療センター(再生医療部)	100,000	補委	日本学術振興会
哺乳類ES細胞からの半数体生殖細胞の誘導	竹原 俊幸	高度先端総合医療センター(再生医療部)	900,000	補委	日本学術振興会
関節軟骨におけるストレス応答分子の検索と炎症・基質破壊経路との関連性に関する検討	小野寺 勇太	高度先端総合医療センター(再生医療部)	1,000,000	補委	日本学術振興会
救急応需の基幹的問題の解明に関する検討	平出 敦	救急医学	1,100,000	補委	日本学術振興会
変異型レセプター型チロシンキナーゼの細胞内輸送を標的とした新規白血病治療法の開発	田中 宏和	内科学(血液・膠原病内科部門)	1,900,000	補委	日本学術振興会
生体内に残存するCML幹細胞の同定と特性解析	平瀬 主税	内科学(血液・膠原病内科部門)	1,300,000	補委	日本学術振興会
CML幹細胞の特性解析	松村 到	内科学(血液・膠原病内科部門)	6,000,000	補委	日本学術振興会
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復一多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	赤木 将男	整形外科	4,000,000	補委	厚生労働省
レニン・アンジオテンシン系の変形性膝関節症の発症および進行に与える影響	赤木 将男	整形外科	1,600,000	補委	日本学術振興会
医療放射線防護に関する研究	細野 真	整形外科	3,000,000	補委	厚生労働省
COPD患者の労作時呼吸困難と脳活動の関係—fMRI及びNIRSによる検討	東本 有司	内科学(呼吸器・アレルギー内科部門)	600,000	補委	日本学術振興会
腎細胞癌に対するマルチペプチドワクチンの開発	植村 天受	泌尿器科学	7,000,000	補委	日本学術振興会
治験の実施に関する研究(サリドマイド)	楠 進	内科学(神経内科部門)	1,000,000	補委	日本学術振興会

難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	楠 進	内科学(神経内科部門)	500,000	補委	日本学術振興会
難治性神経疾患の病態におけるプロテオグリカンの意義の解明と臨床応用の検討	楠 進	内科学(神経内科部門)	3,600,000	補委	日本学術振興会
網羅的自己抗体プロファイリング法に基づく免疫性神経疾患の病態解明と治療戦略の構築	楠 進	内科学(神経内科部門)	1,420,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患における糖鎖へのBリンパ球応答のネガティブレギュレーターの解析	楠 進	内科学(神経内科部門)	4,300,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患に関する調査研究	楠 進	内科学(神経内科部門)	59,231,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究班・スモン患者後見所見に関する調査研究	楠 進	内科学(神経内科部門)	500,000	補委	厚生労働省
中枢・末梢連合脱髄性症の診断基準作成と臨床疫学調査の実施による治療	楠 進	内科学(神経内科部門)	200,000	補委	厚生労働省
アトピー関連脳脊髄・末梢神経障害の病態解明と画期的治療法の開発	楠 進	内科学(神経内科部門)	1,000,000	補委	厚生労働省
ドラッグ・リポジショニングによる視神経脊髄炎(NMO)の治療薬開発に関する研究	楠 進	内科学(神経内科部門)	2,500,000	補委	日本学術振興会
進行非小細胞肺癌を対象としたエルロチニブとYM155の分子標的治療薬併用第I相試験	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	83,924,000	補委	厚生労働省
未治療原発不明癌に対するDNAチップを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う無作為化第II相試験	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	18,693,000	補委	厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	400,000	補委	厚生労働省
進展型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射の実施の有無を比較するランダム化比較第III相試験	金田 裕靖	内科学(腫瘍内科部門)	400,000	補委	厚生労働省
呼吸器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	500,000	補委	国立がん研究センター
肺癌における上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害薬耐性機構の解明における遺伝子解析(臨床指定3A2)	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	9,090,910	補委	国立大学法人九州大学
進行非小細胞肺癌における癌関連遺伝子の網羅的解析による治療標的分子探索研究	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	200,000	補委	日本学術振興会
MET遺伝子増幅胃癌におけるMETチロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果の解析	中川 和彦	内科学(腫瘍内科部門)	100,000	補委	日本学術振興会
肺癌におけるFOXQ1高発現による分子標的薬を含む化学療法の効果予測	金田 裕靖	内科学(腫瘍内科部門)	1,400,000	補委	日本学術振興会
EGFRチロシンキナーゼ阻害剤によるアポトーシスにおけるサバイビンの役割	岡本 邦男	内科学(腫瘍内科部門)	600,000	補委	日本学術振興会

計66

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	山本 裕美	内科学 (循環器内科部門)	Effects of cilnidipine on sympathetic outflow and sympathetic arterial pressure and heart rate regulations in rats	Life Sciences/92(24-26)/1202-1207/2013
2	菅 竜也	内科学 (循環器内科部門)	Clinical utility of low-pressure implantation of drug-eluting stent into very small vessels	Journal of Cardiology/63(3)/218-222/2014
3	能宗 伸輔	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	Association Study of MAFA and MAFB, Genes Related to Organ-Specific Autoimmunity, with Susceptibility to Type 1 Diabetes in Japanese and Caucasian Populations	Journal of Genetic Syndromes & Gene Therapy/4・11/1-6/2013
4	馬場谷 成	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	Dose Effect and Mode of Inheritance of Diabetogenic Gene on Mouse Chromosome 11	Journal of Diabetes Research/2013/1-6/2013
5	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	Advances in Liver Fibrosis Imaging and Hepatocellular Carcinoma: Update in 2013	Oncology 84:1-2, 2013
6	矢田 典久	内科学 (消化器内科部門)	Assessment of liver fibrosis with real-time tissue elastography in chronic viral hepatitis	Oncology 84:13-20, 2013
7	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	Role of gadolinium-ethoxybenzyl-diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance imaging (Gd-EOB-DTPA MRI) in the management of hepatocellular carcinoma: Consensus at the Symposium of the 48th Annual Meeting of the Liver Cancer Study Group of Japan	Oncology 84:21-27, 2013
8	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	Early Hepatocellular Carcinoma: Definition and Diagnosis	Liver Cancer 2(2):69-72, 2013
9	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	Chronic liver diseases and hepatocellular carcinoma: an update for 2013	Digest Dis 31:405-407, 2013
10	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	Hepatocellular carcinoma in Child-Pugh C cirrhosis: prognostic factors and survival benefit of nontransplant treatments	Digest Dis 31:490-498, 2013
11	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	Alpha-fetoprotein-L3: Useful or Useless for Hepatocellular Carcinoma?	Liver Cancer 2(3-4):151-152, 2013
12	工藤 正俊	内科学 (消化器内科部門)	JSUM ultrasound elastography practice guidelines: liver	J Med Ultrason 40:325-357, 2013
13	西田 直生志	内科学 (消化器内科部門)	Quantification of tumor DNA in serum and vascular invasion of human hepatocellular carcinoma	Oncology 84:82-87, 2013
14	西田 直生志	内科学 (消化器内科部門)	Recent advancements in comprehensive genetic analyses for human hepatocellular carcinoma	Oncology 84:93-97, 2013
15	西田 直生志	内科学 (消化器内科部門)	Clinical and histological features of different types of Budd-Chiari syndrome: a Comparison of 4 cases	Digest Dis 31:408-414, 2013
16	西田 直生志	内科学 (消化器内科部門)	Oxidative stress and epigenetic instability in human hepatocarcinogenesis	Digest Dis 31:447-453, 2013

17	西田 直生志	内科学 (消化器内科部門)	Reactive oxygen species induce epigenetic instability through the formation of 8-hydroxydeoxyguanosine in human hepatocarcinogenesis	Digest Dis 31:459-466, 2013
18	西田 直生志	内科学 (消化器内科部門)	Unique association between global DNA hypomethylation and chromosomal alterations in human hepatocellular carcinoma	Plos One 8(9):e72312, 2013
19	松井 繁長	内科学 (消化器内科部門)	Senile systemic amyloidosis localized to the stomach	Digest Endosc 25:468-469, 2013
20	萩原 智	内科学 (消化器内科部門)	Impact of peginterferon Alpha-2b and entecavir hydrate combination therapy on persistent viral suppression in patients with chronic hepatitis B	J Med Virol 85:987-95, 2013
21	井上 達夫	内科学 (消化器内科部門)	Usefulness of contrast-enhanced ultrasonography to evaluate the post treatment responses of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma; comparison with dynamic CT	Oncology 84:51-57, 2013
22	井上 達夫	内科学 (消化器内科部門)	Hypovascular hepatic nodules showing hypointense on the hepatobiliary-phase image of Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI to develop a hypervascular hepatocellular carcinoma: a nationwide retrospective study on their natural course and risk factors	Digest Dis 31:472-479, 2013
23	矢田 典久	内科学 (消化器内科部門)	Autoimmune hepatitis and immunoglobulin G4-associated autoimmune hepatitis	Digest Dis 31:415-420, 2013
24	櫻井 俊治	内科学 (消化器内科部門)	p38 α inhibits liver fibrogenesis and consequent hepatocarcinogenesis by curtailing accumulation of reactive oxygen species	Cancer Res 73:215-224, 2013
25	櫻井 俊治	内科学 (消化器内科部門)	Hypothermia protects against fulminant hepatitis in mice by reducing reactive oxygen species production	Digest Dis 31:440-446, 2013
26	櫻井 俊治	内科学 (消化器内科部門)	Molecular link between liver fibrosis and hepatocellular carcinoma	Liver Cancer 2(3-4):365-366, 2013
27	南 康範	内科学 (消化器内科部門)	Therapeutic response assessment of transcatheter arterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma: US, CT and MRI	Oncology 84:58-63, 2013
28	南 康範	内科学 (消化器内科部門)	Radiofrequency ablation of liver metastases from colorectal cancer: a literature review	Gut Liver 7:1-6, 2013
29	南 康範	内科学 (消化器内科部門)	Radiofrequency ablation for hepatic malignancies: is needle tract cauterization necessary for preventing iatrogenic bleeding?	Digest Dis 31:480-484, 2013
30	峯 宏昌	内科学 (消化器内科部門)	Association of gankyrin and stemness factor expression in human colorectal cancer	Digest Dis Sci 58:2337-2344, 2013
31	高山 政樹	内科学 (消化器内科部門)	Efficacy of treatment with rebamipide for endoscopic submucosal dissection-induced ulcers	World J Gastroenterol 19:5706-5712, 2013
32	永田 嘉昭	内科学 (消化器内科部門)	Heat shock protein 27 expression is inversely correlated with atrophic gastritis and intraepithelial neoplasia	Digest Dis Sci 58:381-388, 2013
33	荒尾 徳三	ゲノム生物学	FGF3/FGF4 Amplification and Multiple lung Metastases in responders to sorafenib in hepatocellular carcinoma	Hepatology 57:1407-1415, 2013
34	杉山昌史	内科学 (血液・膠原病内科部門)	Successful treatment with tacrolimus in a case of the glucocorticoid-dependent recurrent cutaneous eosinophilic vasculitis. Successful treatment with tacrolimus in a case of the glucocorticoid-dependent recurrent cutaneous eosinophilic	Ann Dermatol/25/2/252-254/2013
35	桑原 基	内科学 (神経内科部門)	Clinical features of CIDP with LM1-associated antibodies.	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2013; 84: 573-575.

36	濱田 征宏	内科学 (神経内科部門)	Circadian expression and specific localization of a sialyltransferase gene in the suprachiasmatic nucleus.	Neurosci Lett 2013; 535: 12-17.
37	平野 牧人	内科学(神経内科部門) ・堺病院 神経内科	Mutations in the gene encoding p62 in Japanese patients with amyotrophic lateral sclerosis.	Neurology 2013; 80: 458-463.
38	鈴木 秀和	内科学 (神経内科部門)	Anti-NMDAR encephalitis preceded by dura mater lesions.	Neurol Sci, 2013; 34:1021-1022.
39	小川 郁子	内科学 (神経内科部門)	Ophthalmologic involvement in Japanese siblings with chorea-acanthocytosis caused by a novel chorein mutation.	Parkinsonism Relat Disord, 2013;19:913-915
40	楠 進	内科学 (神経内科部門)	Autoantibodies in neuroimmunological diseases; relevance of fine specificity.	Experimental Neurology 2013; 250: 219-220.
41	川上 尚人	内科学 (腫瘍内科部門)	MET amplification as a potential therapeutic target in gastric cancer.	Oncotarget. 4(1)9-17,2013
42	武田 真幸	内科学 (腫瘍内科部門)	Clinical Impact of Continued Crizotinib Administration after Isolated Central Nervous System Progression in Patients with Lung Cancer Positive for ALK Rearrangement.	J Thorac Oncol. 8(5)654-657,2013
43	金田 裕靖	内科学 (腫瘍内科部門)	Rapid Response of Brain Metastasis to Crizotinib in a Patient with ALK Rearrangement-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer.	J Thorac Oncol. 8(4)e32-33,2013
44	川上 尚人	内科学 (腫瘍内科部門)	Practical Use of Gemcitabine and Cisplatin Combination Therapy as First-Line Treatment for Japanese Patients with Advanced Biliary Tract Cancer.	Journal of Cancer Therapy 4 1068-1073,2013
45	岡本 邦男	内科学 (腫瘍内科部門)	Bronchoscopic findings for bevacizumab-related pulmonary hemorrhage in advanced non-small cell lung cancer.	Invest New Drugs. 31(5)1364-6,2013
46	川上 尚人	内科学 (腫瘍内科部門)	Postprogression survival for first-line chemotherapy in patients with advanced gastric cancer.	Eur J Cancer. 49(14)3003-9,2013
47	川上 尚人	内科学 (腫瘍内科部門)	Human papillomavirus DNA and p16 expression in Japanese patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma.	Cancer Med. 2(6)933-4,2013
48	武田 真幸	内科学 (腫瘍内科部門)	Survival outcome assessed according to tumor response and shrinkage pattern in patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer treated with gefitinib or erlotinib.	J Thorac Oncol. 9(2)200-4,2014
49	林 秀敏	内科学 (腫瘍内科部門)	Phase II study of bi-weekly irinotecan for patients with previously treated HER2-negative metastatic breast cancer: KMBOG0610B.	Breast Cancer. 20(2)131-6,2013
50	林 秀敏	内科学 (腫瘍内科部門)	Postprogression Survival in Patients With Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer Who Receive Second-Line or Third-Line Chemotherapy.	Clin Lung Cancer. 14(3)261-6,2013
51	林 秀敏	内科学 (腫瘍内科部門)	Phase I pharmacokinetic study of s-1 granules and nedaplatin for advanced head and neck cancer.	Anticancer Res. 33(12)5699-705, 2013
52	林 秀敏	内科学 (腫瘍内科部門)	The OCT4 pseudogene POU5F1B is amplified and promotes an aggressive phenotype in gastric cancer.	Oncogene.1-10,2013
53	林 秀敏	内科学 (腫瘍内科部門)	Cystic Brain Metastasis in Non-Small-Cell Lung Cancer With ALK Rearrangement.	J Clin Oncol. 2014 in press
54	小山 敦子	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	The physical and psychological problems of non-Japanese Patients living in Japan from the view point of psychosomatic medicine.	平成25年度国際人文科学研究所紀要／なし／P.71-84／2014年3月

55	松岡 弘道	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	Chemotherapeutic drugs that penetrate the blood-brain barrier affect the development of hyperactive delirium in cancer patients	Palliative Support Care/ 26/P.1-6/2014年6月
56	奥見 裕邦	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	Kampo medicine for palliative care in Japan	BioPsychoSocial Meidcine /8/P.6/2014年1月
57	松岡 弘道	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	Regression of brain metastases from breast cancer with eribulin: a case report	BMC Research Notes/6 /P.541/2013年12月
58	松岡 弘道	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	Clinical Response to Crizotinib Retreatment After Acquisition of Drug Resistance	Journal of Clinical Oncology/31/P.322- 323/2013年
59	富田 桂公	内科学(呼吸器・ アレルギー内科部門)	New target for asthma treatment:Inhibition of cluster formation of lipid rafts	OA Immunology /1,1/1- 19/2013
60	岩永 賢司	内科学(呼吸器・ アレルギー内科部門)	Importance of clinical epidemiology research in studies on respiratory diseases	Respiratory Investigation/51,4/217- 223/2013
61	山藤 啓史	内科学(呼吸器・ アレルギー内科部門)	Mediastinal fibrosis and positive antineutrophil cytoplasmic antibodies:coincidence or common etiology?	Internal Medicine/53,3/275- 277/2014
62	辻井 農亜	精神神経科学	Right temporal activation differs between melancholia and nonmelancholic depression: A multichannel near-infrared spectroscopy study	Jornal of Psychiatric Research/55/1-7/2014
63	辻井 農亜	精神神経科学	Discrepancy between self- and observer-rated depression severities as a predictor of vulnerability to suicide in patients with mild depression.	Jornal of Affective Disorders/161/144- 149/2014
64	杉本 圭相	小児科学	Cure of relapsing nephrosis by an allogeneic marrow graft for chronic myelogenous leukemia.	Pediatric Nephrology June 2013,Volume 28, Issue 6,pp 975-978
65	安田 卓司	外科学 (上部消化管部門)	Evaluation of dysphagia and diminished airway protection after three-field esophagectomy and a remedy.	World journal of surgery/37/ 416-423/2013
66	安田 卓司	外科学 (上部消化管部門)	Optimal reconstruction methods with a gastric substitute after esophagectomy.	Act Med Kinki Univ/ 38/69-78/2013
67	安田 卓司	外科学 (上部消化管部門)	Decreased preoperative plasma substance P concentration is likely associated with postoperative silent aspiration after esophagectomy.	Esophagus/11/ 99-107/2014
68	安田 卓司	外科学 (上部消化管部門)	Systemic control and evaluation of the response to neoadjuvant chemotherapy in resectable thoracic esophageal squamous cell carcinoma with 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography-positive lymph nodes.	Surg Today DOI 10.1007/s00595-014- 0956-7/2014
69	今野 元博	外科学 (上部消化管部門)	High expression of epithelial cellular adhesion molecule in peritoneal metastasis of gastric cancer.	Targeted ncology/ 8(4)/231-5/2013
70	今野 元博	外科学 (上部消化管部門)	Establishment of a novel model of peritoneal carcinomatosis of the peritoneal extension type.	Anticancer earch/ 33(4)/1439-46/2013
71	今野 元博	外科学 (上部消化管部門)	A Phase I/II trial of radiotherapy concurrent with TS-1 plus cisplatin in patients with clinically resectable type 4 or large type 3 gastric cancer: Osaka Gastrointestinal Cancer Chemotherapy Study Group OGSG1205.	Japanese Journal of clinical oncology/ 43(4)/431-5/2013
72	今野 元博	外科学 (上部消化管部門)	Treatment strategies for gastric cancer patients with peritoneal metastasis.	Surg Today/44(3)/ 399-404/2014
73	奥野 清隆	外科学 (下部消化管部門)	Clinical Trial of a 7-Peptide Cocktail Vaccine with Oral Chemotherapy for Patients with Metastatic Colorectal Cancer.	ANTICANCER RESEARCH/34/3045- 3052/2014

74	小北 晃弘	外科学 (下部消化管部門)	Hypoxia induces resistance to ALK inhibitors in the H3122 non-small cell lung cancer cell line with an ALK rearrangement via epithelial-mesenchymal transition.	INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY/DOI:10.3892/ijo.2014.2574
75	肥田 仁一	外科学 (下部消化管部門)	High ligation of the inferior mesenteric artery in rectal cancer surgery.	Surg Today/43/8-19/2013
76	所 忠男	外科学 (下部消化管部門)	Analysis of the clinical factors associated with anal function after intersphincteric resection for very low rectal cancer.	WORLD JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY/11:24 doi:10.1186/1477-7819-
77	波多邊 繁	外科学 (下部消化管部門)	Overexpression of heparan sulfate 6-O-sulfotransferase-2 in colorectal cancer.	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY/DOI:10.3892/mco.2013.151
78	肥田 仁一	外科学 (下部消化管部門)	Distal dissection in total mesorectal excision, and preoperative chemoradiotherapy and lateral lymph node dissection for rectal cancer.	Surg Today. [Epub ahead of print]. /PMID: 24363114. DOI 10.1007/s00595-013-0811-2/2013
79	光富 徹哉	外科学 (呼吸器外科部門)	Surgery for NSCLC in the era of personalized medicine	Nat. Rev. Clin. Oncol./10-4/235-44/2013
80	須田 健一	外科学 (呼吸器外科部門)	Development of personalized treatments in lung cancer: focusing on the EGFR mutations and beyond.	Lung Cancer: Targets and Therapy/4/43-53/2013.
81	須田 健一	外科学 (呼吸器外科部門)	Successes and limitations of targeted cancer therapy in lung cancer.	Progress in Tumor Research/41/62-77/2014(Epub 2014 Feb 17).
82	須田 健一	外科学 (呼吸器外科部門)	Unintentional weakness of cancers: the MEK-ERK pathway as double-edged sword.	Molecular Cancer Research/11-10/1125-8/2013.
83	須田 健一	外科学 (呼吸器外科部門)	The insulin-like growth factor 1 receptor causes acquired resistance to erlotinib in lung cancer cells with the wild-type epidermal growth factor receptor.	International Journal of Cancer/135-4/1002-6/2014(Epub 2014 Feb 4).
84	岡田 理恵子	脳神経外科学	Brain areas associated with sentence processing: a functional MRI study and a lesion study.	J Neuroling/26/470-478/2013 DOI: 10.1016/j.jneuroling.2013.0
85	奥田 武司	脳神経外科学	Administration of gefitinib via nasogastric tube effectively improved the performance status of a patient with lung adenocarcinoma-derived meningeal carcinomatosis.	Int Canc Conf J/epub ahead DOI:10.1007/s13691-013-0148-0/2013
86	金田 敏夫	心臓血管外科学	Small right vertical infra-axillary incision for minimally invasive port-access cardiac surgery: a moving window method.	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery/16(4)/544-546/2013
87	森 成志	整形外科	Tibia Vara Affects the Aspect Ratio of Tibial Resected Surface in Female Japanese Patients Undergoing TKA	Clin Orthop Relat/471-5/1465-1471/2013
88	墳本 一郎	整形外科	Activating types 1 and 2 angiotensin II receptors modulate the hypertrophic differentiation of chondrocytes.	FEBS Open Bio. /4-3/279-284/2013
89	朝田 滋貴	整形外科	Influence of the sagittal reference axis on the femoral component size	J Arthroplasty/28-6/943-949/2013
90	森 成志	整形外科	Nonunited insufficiency fracture of the proximal tibia and the distal femur treated by high tibial osteotomy in a patient under hemodialysis	J Orthop Sci/19-1/181-185/2014
91	宮本 裕史	整形外科	Outcomes of surgical intervention for cervical spondylotic myelopathy accompanying local kyphosis (comparison between laminoplasty alone and posterior reconstruction surgery using the screw-rod system)	Eur Spine J./23-2/341-346/2014
92	吉村 一宏	泌尿器科学	Phase I clinical trial of human vascular endothelial growth factor receptor 1 peptide vaccines for patients with metastatic renal cell carcinoma	BJU.,108,1260-1266,2013

93	杉岡 孝二	眼科学	TGF- β 2 promotes RPE cell invasion into a collagen gel by mediating urokinase-type plasminogen activator (uPA) expression	Exp Eye Res115C: 13-21, 2013
94	若山 暁美	眼科	Effect of suppression during tropia and phoria on phoria maintenance in intermittent exotropia	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol(In print) , 2013
95	野本 裕貴	眼科学	Quantification of changes in metamorphopsia and retinal contraction in eyes with spontaneous separation of idiopathic epiretinal membrane	Eye(Lond)27(8): 924-930, 2013
96	櫻本 宏之	眼科	Two siblings with late-onset cone-rod dystrophy and no visible macular degeneration	Clinical Ophthalmology7: 1703-1711; 2013
97	國吉 一樹	眼科学	Intravitreal injection of bevacizumab for retinopathy of prematurity	Japanese Journal of Ophthalmology58(3): 237-243; 2014
98	國吉 一樹	眼科学	Two types of acute zonal occult outer retinopathy differentiated by dark- and light-adapted perimetry	Journal of Ophthalmology58(2): 177-87; 2014
99	児玉 彩	眼科学	Combined treatment for Coats' disease: retinal laser photocoagulation combined with intravitreal bevacizumab injection was effective in two cases Two types of acute zonal occult outer retinopathy differentiated by dark- and light-adapted perimetry	BMC Ophthalmology14(36): 1-6; 2014
100	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科学	Detection of utricular dysfunction using ocular vestibular evoked myogenic potential in patients with benign paroxysmal positional vertigo	Neurosci Lett. /550/12-16/ 2013
101	寺尾 恭一	耳鼻咽喉科学	A case of calcific retropharyngeal tendinitis: the significance of an early diagnosis.	Ear Nose Throat J./92(2)/74-83/2013
102	石井 一成	早期認知症センター	Automatic volumetry of the cerebrospinal fluid space in idiopathic normal pressure hydrocephalus.	Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 3:489-496, 2013
103	岡田 真広	放射線医学 (放射線診断学部門)	Comparison between T1 Relaxation time of Gd-EOB-DTPA enhanced MRI and liver stiffness measurement of US elastography in the evaluation on cirrhotic liver.	J Magn Reson Imaging.2013
104	香川 祐毅	放射線医学 (放射線診断学部門)	Optimal scan timing of hepatic arterial-phase imaging of hypervascular hepatocellular carcinoma determined by multiphasic fast CT imagingtechnique	Acta Radiol. 54(8):843-850, 2013
105	兵頭 朋子	放射線医学 (放射線診断学部門)	Hypavascular Nodules in Chroni Liver Disease: Richk Factors for Developing Hypervascular Hepatocellular Carcinoma	Radiology. 266(2): 480-490, 2013
106	松木 充	放射線医学 (放射線診断学部門)	Impact of adaptive iterative dose reduction (AIDR) 3D on low-dose abdominal CT: comparison with routine-dose CT using filtered back projection.	Acta Radiol 54(8): 869-875, 2013
107	坂口 研太	高度先端総合医療センター (PET分子イメージング部門)	Dynamic sequence respiratory gated perfusion pulmonary SPECT without external tracking device.	Ann Nucl Med. 27: 65-73, 2013
108	鶴崎 正勝	高度先端総合医療センター (PET分子イメージング部門)	Clinical application of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography for assessment and evaluation after therapy for malignant hepatic tumor.	J Gastroenterol. 49(1):46-56. 2014
109	西 環	中央放射線部	Volume and dosimetric changes and initial clinical experience of a two-step adaptive intensity modulated radiation therapy (IMRT) scheme for head and neck cancer.	Radiother Oncol 106:85-89, 2013
110	松本 賢治	中央放射線部	Dosimetric properties and clinical application of an a-Si EPID for dynamic IMRT quality assurance.	Radiol Phys Technol 6:210-218, 2013
111	立花 和泉	放射線医学 (放射線診断学部門)	A prospective clinical trial of tumor hypoxia imaging with 18F-fluoromisonidazole positron emission tomography and computed tomography (F-MISO PET/CT) before and during radiation therapy.	J Radiat Res 54: 1078-1084, 2013

112	冬田 昌樹	麻酔科学	Sudden cardiac arrest during general anesthesia in an undiagnosed brugada patient	J Cardiothorac Vasc Anesthesia 27(6)/1334-1336/2013
113	梶川 竜司	麻酔科学	The effect of sevoflurane or propofol with or without an anti-emetic dose of droperidol on the QTc interval and the transmural dispersion of repolarization.	Acta Med Kinki Univ38(1)/25-31-2013
114	高井 規子	麻酔科学	Fatal pulmonary embolism following spinal surgery in a patient with permanent inferior vena cave filter placement.	J Anesth/28/606-609-2014
115	遠所 瑞拓	形成外科学	Usefulness of poly glycolic acid-polypropylene composite scaffolds for the 3-dimensional cartilage regeneration in a large animal autograft	Plastic Reconstructive Surgery/131(1)/335-342/2013
116	朝村 真一	形成外科学	Is it truly necessary to add the epicanthoplasty for the correction of the epiblepharon?	J.of craniofacial Surgery/24(4)/1137-1140/2013
117	朝村 真一	形成外科学	Coincidental tumors in the main and an accessory parotid gland	J.of Case Report in Medicine/2/1-3/2013
118	朝村 真一	形成外科学	The pectoralis major myocutaneous pedicled flap revisited	Surgical Science/4(9)/2013
119	朝村 真一	形成外科学	How to repair the lower eyelid retraction, resulting from the primary surgery for epiblepharon?	ePlasty/13/477-483/2013
120	朝村 真一	形成外科学	What is the best strategy for Asians with involuntal entropion?	J.of Craniofacial Surgery/25(3)/972-975/2013
121	上裕 俊法	臨床検査医学	Relationship between serum bilirubin and remnant lipoprotein cholesterol level.	Clin Lab 59:435-8.2013
122	岸野 好純	中央臨床検査部	Ezetimibe increases hepatic iron levels in mice fed a high-fat diet	J Pharmacol Exp Ther 345:483-91 2013
123	榎本 明史	歯科口腔外科	Surgical Treatment of Temporomandibular Joint Psoriatic Arthritis:A clinical Report.	HOSPITAL DENTISTRY & ORAL-MAXILLOFACIAL SURGERY/25・1/47-50/2013
124	西内 辰也	救急医学	Epidemiological characteristics of sudden cardiac arrest in schools.	Resuscitation 2014;85:1001-6.
125	寺村 岳士	高度先端総合医療センター (再生医療部)	Generation of embryonic stem cell lines from immature rabbit ovarian follicles.	Stem Cells Dev. 2013 Mar 15;22(6):928-38
126	寺村 岳士	高度先端総合医療センター (再生医療部)	Induction of functional mesenchymal stem cells from rabbit embryonic stem cells by exposure to severe hypoxic conditions.	Cell Transplant. 2013;22(2):309-29
127	本田 憲胤	リハビリテーション部	Effect of therapeutic touch on brain activation of preterm infants in response to sensory punctate stimulus: a near-infrared spectroscopy-based study.	Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed. 2013 May;98(3)
128	寺村 岳士	高度先端総合医療センター (再生医療部)	Induced pluripotent stem cells in reproductive medicine	Reprod Med. Biol.2013.12:2:39-46
129	小野寺 勇太	高度先端総合医療センター (再生医療部)	c-Jun N-terminal kinase (JNK) mediates Rho/ROCK induced Sox9 diminution in chondrocytes	ACTA MEDICA KINKI UNIVERSITY 38(2), 91-100, 2013-12

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	池田 智之	内科学 (循環器内科部門)	ラット高血圧性心不全モデルにおけるバソプレッシンV1a受容体拮抗薬の慢性投与効果およびバソプレッシンV2受容体拮抗薬との併用効果に関する検討	近畿大学医学雑誌:38(1,2):37-46:2013
2	池上 博司	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1型糖尿病の予防と治療:臓器特異的な自己免疫の制御と膵β細胞保護	日本体質医学会雑誌/76・1/30-33/2014
3	朴 忠勇	内科学 (循環器内科部門)	円形脱毛症に併存する甲状腺および膵島自己免疫に関する臨床的・遺伝的研究	近畿大学医学雑誌 (Medical Journal of Kinki University) /38・3,4/30-33/2013
4	村田 佳織	内科学(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	自己免疫性甲状腺疾患に対する主要組織適合遺伝子複合体の関与	近畿大学医学雑誌 (Medical Journal of Kinki University) /38・1,2/55-61/2013
5	田中 宏和	内科学(血液・膠原病内科部門)	白血病	アニムス No.75 11-15 2013.4
6	芦田 隆司	内科学(血液・膠原病内科部門) 輸血細胞治療センター	血液疾患における血球輸血量と輸血後鉄過剰症の現状	臨床血液 54巻4号 365-369 2013.4
7	田中 宏和	内科学(血液・膠原病内科部門)	慢性好酸球白血病、非特定型	日本臨床 No.23 80-82 2013.5
8	平瀬 主税	内科学(血液・膠原病内科部門)	慢性骨髄性白血病	日本臨床 No.23 80-82 2013.5
9	松村 到	内科学(血液・膠原病内科部門)	分子標的治療薬の選び方、使い方	臨床プラクティス Vol.9 No.3 218-225 2013.8
10	平瀬 主税	内科学(血液・膠原病内科部門)	慢性骨髄性白血病	臨床と研究 第90巻 第11号 48-56 2013.11
11	嶋田 高広	内科学(血液・膠原病内科部門)	緑膿菌の免疫回避機構	Jpn.J.Clin.Immunol Vol.37 No.1 33-41 2014.1
12	宮武 淳一	内科学(血液・膠原病内科部門)	慢性骨髄性白血病	臨床プラクティス Vol.10 No.1 43-48 2014.2
13	平瀬 主税	内科学(血液・膠原病内科部門)	慢性骨髄性白血病におけるELN2013	血液内科 第68巻第3号 399-404 2014.3
14	小山 敦子	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	サイコオンコロジー総論	日本心身医学会/54巻1号/P.12-19/2014年1月
15	牧村 ちひろ	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	胃癌の治療戦略 緩和医療と疼痛管理 『モルヒネ治療効果予測とバイオマーカー』	日本臨牀最新胃癌学/72巻増刊号1/P.596-600/2014年1月
16	小山 敦子	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	心身医学とがん医療	近畿大医誌/38巻3,4号/P.81-87/2013年12月
17	小山 敦子	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	女性とがん、サイコオンコロジー —患者の立場から、家族の立場から—	女性心身医学/18巻2号/P.204-210/2013年11月
18	小山 敦子	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	消化器がんのサイコオンコロジー	日本心療内科学会誌/17巻3号/P.159-166/2013年

19	小山 敦子	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	「男女共同参画社会がもたらす女性の悩みと対策」	日本心療内科学会誌/17 巻1号/P.25-32/2013年
20	松岡 弘道	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	肺癌の治療戦略 緩和医療と疼痛管理 『モルヒネ治療効果予測とバイオマーカー』	日本臨牀最新肺癌学/71 巻増刊号6/P.648-652/ 2013年
21	松岡 弘道	内科学(腫瘍内科部門 心療内科分野)	手足症候群、神経障害	プロフェッショナル・がん ナーシング/3巻3号/ P6-17&20-21/2013年
22	鈴木 秀和	内科学 (神経内科部門)	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーの臨床的および血清学的 解析.	神経治療学 30: 173-179, 2013
23	寒川 真	内科学 (神経内科部門)	1-Bromopropane曝露による中毒性神経障害の一例.	産業医学ジャーナル 36: 16-21, 2013
24	桑原 基	内科学 (神経内科部門)	末梢神経の治療の進歩.	神経治療学30:423-426, 2013.
25	切目 栄司	精神神経科学	うつ症状を呈する大うつ病性障害と双極性障害のNIRSを用いた鑑 別診断補助について	精神科/22巻4号/ 424-429/2013
26	辻井 農亜	精神神経科学	双極性障害患者における自殺傾性と抑制機能の関連	Bipolar Disorder/11巻 /25-31/2013
27	辻井 農亜	精神神経科学	気分障害における自覚症状の乖離と自覚症状評価の重要性 先進医療「光トモグラフィ検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」の 経験から	精神医学/55巻7号 /653-661/2013
28	辻井 農亜	精神神経科学	うつ症状に対する鑑別診断補助としてのNIRSの現状と課題ー近畿 大学医学部附属病院における先進医療からー	精神科診断学/6巻/69- 75/2013
29	柳田 英彦	小児科学	Guillain-Barre Syndrome and Crohn disease: A Case Report.	Journal of Child Neurology published online 3 October 2013, DOI:10.1177/08830738135
30	杉本 圭相	小児科学	Periodic fever,aphthous stomatitis,pharyngitis,and adenitis(PFAPA)syndrome and IgA nephropathy.	Pediatric Nephrology January 2013,Volume 28, Issue 1,pp 151-154
31	光富 徹哉	外科学 (呼吸器外科部門)	ドライバー遺伝子変異と肺がんの分子標的治療	癌と化学療法/40/285- 90/2013.
32	水内 寛	外科学 (呼吸器外科部門)	神経成長因子および上皮成長因子の発見(1986年)癌関連のノー ベル賞2(病因論編).	Surgery Frontier/20/137- 41/2013.
33	水内 寛	外科学 (呼吸器外科部門)	がんの遺伝子異常ーdriverとpassengerー	腫瘍内科/13・1/96- 100/2014.
34	森 成志	整形外科	TKA後VTE予防における抗凝固薬の使用意義	関節外科/32・2/194- 199/2013
35	赤木 将男	整形外科	骨折に伴う静脈血栓塞栓症 序文	日整会誌/87・5/403- 404/2013
36	大谷 和裕	整形外科	重度手根管症候群に対する母指対立再建術	日手会誌/30・3/1-3/2013
37	朝田 滋貴	整形外科	冠状面アライメント:軽度内反位設置は容認できるか?(特集 人工 膝関節置換術up date)	整・災外/56・9/1029- 1033/2013

38	池田 光正	整形外科	骨粗鬆症患者におけるFRAX®のhip fracture risk と hip structure analysis (HSA)の検討	整・災外/56・9/1193-1197/2013
39	富山 貴司	整形外科	TKA後患者さんがぐったりしている	整形外科看護/18・12/28-32/2013
40	富山 貴司	整形外科	時間をおいて2箇所の上腕骨骨幹部骨折をきたした高齢患者の治療経験	中部整災誌/56・3/547-548/2013
41	井上 紳司	整形外科	有鉤骨鉤部摘出後に発症した尺骨神経深枝麻痺の1例	中部整災誌/56・3/581-582/2013
42	池田 光正	整形外科	脊椎疾患に対するプレガバリンの効果の検討	中部整災誌/56・3/671-672/2013
43	西地 晴彦	整形外科	当科の感染人工膝関節治療における二次的再置換術の成績と課題	中部整災誌/56・4/1033-1034/2013
44	汐見 光人	整形外科	当科における人工股関節術後感染に対する二次的再置換術の術後臨床成績と問題点	中部整災誌/56・4/1037-1038/2013
45	中川 晃一	整形外科	下肢外傷後慢性骨髄炎治療における抗菌薬含有骨セメントの適応と限界	中部整災誌/57・2/343-344/2014
46	橋本 和彦	整形外科	結核性膝関節炎の2例	日本骨・関節感染症学会雑誌/27/115-118/2014
47	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科学	VEMPIによって新しいめまいの疾患概念が生み出されるか？	Equilibrium Research/72/210-214/ 2013
48	寺尾 恭一	耳鼻咽喉科学	手術手技 私が愛用する手術器具 頸部郭清術に用いる器具	JOHNS/29(9)/1665-1667/2013
49	寺尾 恭一	耳鼻咽喉科学	フィログガミンP症例 耳鼻咽喉科領域 原発不明の頸部転移癌術後リンパ漏に対してフィログガミンPが著効した1例	MedicalTorch/9(2)/46-47/2013
50	楠原 廣久	形成外科学	血管吻合のない再接着 ; graft on flap法	Orthopaedics/26(10)/24-30/2013
51	戸田 宏文	中央臨床検査部	環境由来Mycobacterium lentiflavumに対するコバスTaqMan MAI 偽陽性反応の検討	感染症学雑誌87, 215-217, 2013
52	井本 真由美	中央臨床検査部	Au480導入検討時に経験したイオン選択電極の違いによる尿中クロール測定値の差異について	臨床化学 42:250-257,2013
53	濱口 満英	救命救急センター	輸液量に対する尿量の比からみた広範囲熱傷の予後比較	熱傷/39巻5号/271-7/2013

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 近畿大学医学部倫理委員会規程に基づき、医学部等で行われる人間を直接対象とした医学の研究及び医療行為が倫理的配慮のもとに行われることを目的として医学部倫理委員会を設置・運営・審査に関する手順及び記録の保存方法を定める。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 近畿大学利益相反マネジメント規定 この規定は、近畿大学における利益相反マネジメントに関し必要な事項を定め、産官学連携の健全な推進と、本学並びに本学教職員が産官学連携活動に取り組むための環境整備に資することを目的とする。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ARO構築の現状と課題－臨床研究の科学と倫理を軸として 平成26年11月10日(予定)	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年年度中の業務報告(平成25年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

近畿大学医学部附属病院における認定医・専門医育成プログラムでは、内科、外科、その他の専門家の認定医・専門医取得を第一目標に定めている。それと同時に2年間の卒後臨床研修で最終目標に定め修得していたプライマリ・ケアの幅と奥行きを深めるために多くの関連病院での研修も含めたカリキュラムを用意している。

2 研修の実績

研修医の人数 123 人

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮崎 俊一	循環器内科	教授	34年	
池上 博司	内分泌・代謝・糖尿病内科	教授	32年	
工藤 正俊	消化器内科	教授	35年	
松村 到	血液・膠原病内科 (血液)	教授	29年	
船内 正憲	血液・膠原病内科 (膠原病)	教授	33年	
楠 進	神経内科	教授	35年	
中川 和彦	腫瘍内科	教授	30年	
東田 有智	呼吸器・アレルギー内科	教授	33年	
有馬 秀二	腎臓内科	教授	22年	
白川 治	メンタルヘルス科	教授	33年	
竹村 司	小児科	教授	31年	
奥野 清隆	外科	教授	36年	
加藤 天美	脳神経外科	教授	34年	
佐賀 俊彦	心臓血管外科	教授	35年	
赤木 将男	整形外科	教授	30年	
福田 寛二	リハビリテーション科	教授	32年	
川田 暁	皮膚科	教授	34年	
磯貝 典孝	形成外科	教授	31年	
植村 天受	泌尿器科	教授	30年	
下村 嘉一	眼科	教授	36年	
土井 勝美	耳鼻咽喉科	教授	32年	
塩田 充	産婦人科	教授	32年	
西村 恭昌	放射線科・放射線腫瘍学部門 (放射線治療科)	教授	32年	
村上 卓道	放射線科診断学部門	教授	27年	
中尾 慎一	麻酔科	教授	32年	
上裕 俊法	臨床検査医学	教授	28年	
森本 剛	救急総合診療センター	教授	18年	
坂田 育弘	救命救急センター	教授	42年	
大槻 俊輔	脳卒中センター	教授	27年	
平出 敦	救命救急医学	教授	32年	
佐藤 隆夫	病院病理部	教授	32年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① Team STEPPS（米国AHRQと国防総省との合同研究企画の結果生まれたチームの新しい活動の考え方・あり方の概要で、特にストレスの高い状況下で治療や看護を行う医療提供者によるチーム活動の進め方とトレーニング方法）研修を全職員対象で実施。
- ② 医療機器研修を看護師・臨床工学技士対象で実施。
- ③ 放射線科看護師に対する、治療計画における線量分布の見方および高度放射線治療の意義や安全性に関する研修。
- ④ 診療放射線技師による、水吸収線量の標準計測法（標準計測法12）を中心とした最新の書物および学術論文の抄読会の実施
- ⑤ 診療放射線技師を対象とした、高度医療機器の安全取り扱いに関する研修の実施

・研修の期間・実施回数

- ① 毎月1回開催。全25回開催(平成26年8月30日現在)。平成25年度は12回開催。全職員修了まで継続予定。
- ② 平成25年度は198回開催。
- ③ 2回／年
- ④ 2回／月
- ⑤ 2回／年

・研修の参加人数

- ① 約1800人が参加(平成26年8月30日現在)。平成25年度は870人が参加。
- ② 平成25年度は2126人が参加。
- ③ 10名
- ④ 10名
- ⑤ 10名

別紙（様式第4-①）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① 放射線科医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師による、放射線治療合同カンファレンスの実施
- ② 診療放射線医師、医学物理士、看護師による、始業前ミーティングの実施
- ③ 医学物理士による、高精度放射線治療機器のQA、QC実施結果の報告およびその内容に関する研修の実施

・研修の期間・実施回数

- ①1回／週
- ②1回／日
- ③1回／週

・研修の参加人数

- ①20名
- ②10名
- ③10名

別紙（様式第4－②）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

- ①Team STEPPS研修で他施設職員参加の受入。
- ②南大阪医療安全ネットワーク研修会（南大阪地域内での医療安全情報共有を目的とし設立。会員施設対象に定期的に研修会を開催）実施。

・研修の期間・実施回数

- ①毎月1回開催。全25回開催（平成26年8月30日現在）。平成25年度は12回開催。
- ②第1回平成25年8月31日開催。第2回平成26年8月23日開催。平成26年10月以降2ヶ月に1回開催予定。

・研修の参加人数

- ①約1800人が参加（平成26年8月30日現在）。平成25年度は他施設より107人が参加。
- ②第1回約100名、第2回約50名参加。

（注）1 高度の医療に関する研修について記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告（平成25年度実績）においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

別紙(様式第4-①)

①医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修(看護部)

看護実践能力到達段階別研修

I 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
医療用ポンプ 92名	平成25年4月15日(月) 14:00~17:00 平成25年4月22日(月) 14:00~17:00 平成25年4月27日(土) 9:00~12:00	目的:医療用ポンプの機能・特徴を理解できる 目標:医療用ポンプの機能・特徴を理解する 医療用ポンプを正しい手順で操作できる
看護技術採血 73名	平成25年4月22日(月) 17:30~18:30 平成25年4月24日(水) 17:30~18:30 平成25年5月20日(月) 17:30~18:30	目的:手順通りに採血が実施でき、検体の取扱いが理解できる 目標:1.検体容器の準備・取扱いを理解できる 2.正しい手順で採血が実施できる
1ヶ月研修 92名	平成25年5月7日(火) 16:00~17:00 平成25年5月9日(木) 16:00~17:00 平成25年5月11日(土) 11:00~12:00	目的:働きはじめからの戸惑いについて表現できる 目標:働きはじめからの戸惑いについて表現できる
心電図(基礎)研修 92名	平成25年5月7日(火) 14:00~16:00 平成25年5月9日(木) 14:00~16:00 平成25年5月11日(土) 9:00~11:00	目的:基本的な心臓のメカニズムをふまえ、心電図の基本を理解する 目標:心電図の働きが理解できる、正常洞調律を理解できる
3ヶ月研修 92名	平成25年6月20日(木) 8:30~12:00 平成25年6月27日(木) 8:30~12:00 13:30~17:00	目的:3ヶ月を振り返り、チームの一員としての役割を検討できる 目標:1.報告・連絡・相談の問題点について検討し、解決策を検討する 2.ストレスマネジメントの基礎を理解し、上手に付き合う方法を知る
輸血療法 86名	平成25年7月24日(水) 15:00~17:00 平成25年7月27日(土) 10:00~12:00 平成25年7月29日(月) 15:00~17:00	目的:輸血療法の目的を理解し、管理方法・看護師の役割を理解する 目標:1.血液製剤種類・取り扱いを知り、正しい手順で実施できる 2.輸血作用、副作用を理解し、患者観察ができる
救急看護処置技術 92名	平成25年7月16日(火) 9:00~12:00 平成25年7月31日(水) 9:00~17:00 平成25年8月28日(水) 9:00~17:00 平成25年9月14日(土) 9:00~12:00 平成25年11月9日(土) 9:00~12:00	目的:救命救急処置を理解し、蘇生技術を習得する 目標:1.蘇生法が理解でき、実施できる 2.安全にAEDを使用できる 3.気管挿管準備と介助ができる 4.チームメンバーへの応援要請ができる
6ヶ月研修 84名	平成25年9月18日(水) 8:30~12:00 平成25年9月26日(木) 8:30~12:00 平成25年9月28日(土) 8:30~12:00	目的:1.がん拠点病院としての役割について学ぶ 2.自己の看護実践を振り返り、解決策を見出す 目標:1.がん治療を受ける患者を支援するために必要な知識について学ぶ 2.KPTシートを用いて、自己の看護を振り返り、解決策を検討できる
看護過程 83名	平成25年11月11日(月) 8:30~12:00 平成25年11月16日(土) 8:30~12:00 平成25年11月20日(水) 8:30~12:00	目的:看護過程を通じて自己の看護を振り返ることができる 目標:1.看護過程の基本と展開の方法 2.ケースレポートの書き方
心電図(応用) 84名	平成25年12月14日(土) 10:00~12:00 平成25年12月18日(水) 15:00~17:00 平成25年12月20日(金) 15:00~17:00	目的:危険な不整脈を理解し、対処方法を学ぶ 目標:1.血行動態の重篤な低下を招く危険な不整脈を理解できる 2.不整脈出現時の対応を理解できる
1年研修 82名	平成26年2月3日(月) 13:30~17:00 平成26年2月13日(木) 13:30~17:00 平成26年2月15日(土) 8:30~12:00	目的:自分の成長を確認できる 目標:1年間を振り返り、自己の課題を明確にできる 目標管理について理解できるようになる

II 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
看護研究1 41名	平成25年6月13日(木) 17:15~19:15	目的:看護実践に活かす看護研究の意義、研究を行う姿勢を理解し文献検索に基づいた看護研究のプロセスを学ぶ 目標:文献検索の必要性を理解し、文献検索ができる
看護研究2 117名	平成25年7月19日(金) 9:00~12:00 13:00~16:00	目的:看護実践に活かす看護研究の意義、研究に向かう姿勢を理解し文献検索に基づいた看護研究のプロセスを学ぶ 目標:看護研究の進め方基礎知識を習得し、研究計画書に基づいた事例研究の進め方・まとめ方を学ぶ
静脈注射 実施者育成 158名	平成25年7月3日(水) 17:30~18:30 平成25年7月18日(木) 17:30~18:30 平成25年8月1日(木)~ 平成25年8月7日(水) 5日間	静脈注射を安全に実施するための知識・技術を学ぶ 1.講義(静脈注射実施基準解剖学、倫理、看護) 2.実技演習 3.DVD視聴 4.口頭試問、実技テスト
実地指導者 育成研修 50名	平成26年1月29日(水) 8:30~12:30	目的:新人看護職員研修制度を理解し、実地指導者の役割を理解する 目標:実地指導者の役割を理解し、行動できる

III 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
フィジカルアセスメント1 (総論) 57名	平成25年5月23日(木) 17:30~19:00	目的:フィジカルアセスメントスキルについて学んだことを根拠に、アセスメントができる 目標:系統的フィジカルイグザミネーションについて学び、フィジカルアセスメントスキルを身につける
フィジカルアセスメント2 (講義) 29名	平成25年6月13日(木) 8:30~17:00	目的:フィジカルアセスメントスキルについて学んだことを、根拠に基づきアセスメントができる 目標:系統的フィジカルイグザミネーションについて学び、フィジカルアセスメントスキルを身につける
フィジカルアセスメント3 28名	平成25年7月11日(木) 8:30~17:00 平成25年7月16日(火) 9:00~17:00	目的:フィジカルアセスメントスキルについて学んだことを根拠に基づきアセスメントができる 目標:系統的フィジカルイグザミネーションについて学び、フィジカルアセスメントスキルを身につける
フィジカルアセスメント4 28名	平成25年8月24日(土) 8:30~12:00	目標:フィジカルアセスメントの知識・技術を用いて、事例を通して看護実践につなげることができる
臨床指導者 24名	平成25年6月7日(金) 8:30~17:00 平成25年7月4日(木) 8:30~17:00 平成25年7月29日(月) 8:30~17:00	目的:実習指導者として効果的な関わりができる 目標:実習指導の基礎的な知識を理解し、効果的な指導のあり方を学ぶ
リーダーシップ 46名	平成26年7月24日(水) 8:30~16:00	目的:チーム医療の中での看護師の役割を理解し、リーダーシップを発揮することができる 目標:チームの中での自分の役割を理解し、リーダーシップが発揮できる

チームリーダー 28名	平成26年9月12日(木)	8:30～17:00	目的: チーム運営が円滑にできる 目標: チーム運営に責任を持ち、チームリーダーとしてリーダーシップが 発揮できる
看護研究3 27名	平成25年8月16日(金)	9:00～16:00	目的: 看護研究(量的研究)について学び、看護研究に適した分析を理解し 研究に取り組むことが出来る 目標: 看護研究に必要な統計の基礎知識を学ぶ
看護研究4 22名	平成25年9月11日(水)	17:15～19:15	目的: 看護研究(量的研究)について学び、看護研究に適した分析を理解し 研究に取り組むことが出来る 目標: 看護研究に必要な統計の使い方を学ぶ
看護研究5 18名	平成25年11月8日(金)	9:00～12:00	目的: 看護研究を発表するためのスキルを学ぶ 目標: 1. 学会抄録の書き方が分かる 2. 効果的なプレゼンテーションが出来る
静脈注射認定 看護師育成 10名	平成25年11月15日(金)	13:30～17:00 17:30～19:00	目的: 静脈注射に関する院内認定看護師の役割を理解し実践できる 目標: 1. 静脈注射に関する知識・技術の習得をする 2. 静脈注射認定看護師としての役割を学ぶ
教育担当者育成 20名	平成25年12月4日(水)	17:30～19:00	
	平成26年1月15日(水)	9:00～17:00	
チームリーダー育成 46名	平成26年2月5日(水)	8:30～17:00	目的: 新採用者に必要な知識・技術を習得する 目標: 教育担当者の役割を理解し、行動できる
	平成26年1月30日(木)	8:30～12:00	目的: チームリーダーの役割が理解できる 目標: 1. 固定チームナーシングにおけるリーダーの役割が分かる 2. チーム目標立案のプロセスが分かる

IV段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容	
看護研究6 12名	平成25年11月25日(月)	13:30～16:30	目的: 看護研究を発表するためのスキルを学ぶ 目標: 1. 学会抄録の書き方が分かる 2. 効果的なプレゼンテーションができる

全看護職員対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容	
看護研究 186名	平成25年6月17日(月)	17:30～19:00	臨床現場における研究本来の楽しさを学ぶ
シンポジウム 125名	平成25年11月11日(月)	17:30～19:00	目的: チーム医療を円滑に運営するために、各職種、他部門の役割を理解し、 継続的に協力体制が取れる 目標: 新棟開設に向けて各部門の役割を理解する

専門領域研修

がん看護

研修名・参加人数	研修日時	研修内容	
がん性疼痛管理 20名	平成25年6月7日(金)	17:30～19:00	目的: がん性疼痛マネジメントにおける基本的知識を習得し、全人的な視点から 看護師の役割を検討するための知識を養う 目標: 1. がん性疼痛マネジメントの基本とその治療方法を理解することができる 2. 疼痛アセスメントおよび、全人的苦痛のアセスメント方法を理解する ことができる 3. 薬物治療を受ける患者のケアを理解することができる 4. 疼痛緩和における看護技術について理解することができる
エンドオブライフケア 18名	平成25年7月4日(木)	17:30～19:00	
	平成25年8月9日(金)	17:30～19:00	
	平成25年9月6日(金)	17:30～19:00	
エンドオブライフケア 18名	平成25年9月28日(土)	13:30～17:15	目的: エンド・オブ・ライフにある患者の特徴を知り、ケアにつなげる知識・技術を養う 目標: 1. エンド・オブ・ライフケアの基本を理解することができる 2. エンド・オブ・ライフの患者の特徴を知ることができる 3. エンド・オブ・ライフの患者のケアを理解することができる 4. エンド・オブ・ライフにおける看護技術について理解することができる
がん放射線療法看護 10名	平成25年9月20日(金)	17:30～19:00	目的: がん放射線療法を受ける患者と家族の看護ケアを行うために、放射線療法に 関する最新の知識を習得し、がん放射線療法看護の理解を深める
	平成25年10月21日(月)	17:30～19:00	
	平成25年11月15日(金)	17:30～19:00	
がんサバイバーシップ 17名	平成25年11月1日(金)	17:15～19:00	目的: がんサバイバーシップについて理解を深め、日々の看護実践に活かす 方策を得る 目標: 1. がん患者のプロセスを知り、がんとともに生きる人への支援を理解する 2. がん診療連携拠点病院として当院のがんサバイバーの現状を理解し、 支援を検討する
がん化学療法(基礎) 30名	平成25年6月4日(火)	13:30～16:30	目的: がん化学療法を確実・安全・安楽に実施するために必要な知識を習得し、 所属部署での実践と結び付けて考えることができる 目標: がん化学療法を確実・安全・安楽に実施するために主なレジメの使用薬剤の アセスメント項目と投薬管理注意事項を理解し、臨床での課題を見出す ことができる
	平成25年9月3日(火)	13:30～16:30	
	平成25年11月18日(月)	13:30～16:30	
がん化学療法(上級) 7名	平成25年7月19日(金)	17:30～19:00	目的: がん化学療法を確実・安全・安楽に実施するために必要な知識を習得し、 所属部署での実践と結び付けて考えることができる 目標: がん化学療法の知識・技術を看護に応用できる
	平成25年9月13日(金)	17:30～19:00	
	平成25年10月18日(金)	17:30～19:00	
症状マネジメント 17名	平成25年9月12日(木)	17:30～19:30	目的: がん患者の症状マネジメントにおける基本的知識を習得し全人的な視点から 看護師の役割を検討するための知識を養う 目標: 1. がん症状マネジメントの基本とその治療方法・ケアを理解する事ができる 2. 症状アセスメント、および全人的苦痛のアセスメント方法を理解するこ とができる 3. 症状緩和のケアを理解し、看護師の役割を理解することができる
	平成25年10月3日(木)	17:30～19:30	
	平成25年11月7日(木)	17:30～19:30	

家族看護

研修名・参加人数	研修日時	研修内容	
基本的な家族との 関わり方 20名	平成25年6月11日(火)	17:30～19:00	目標: 家族の一員が病気になることで、家族がどのような影響を受けるかを 考えることができる
家族への意思決定支援 8名	平成25年7月9日(火)	13:00～17:00	目的: 全領域に共通する意思決定支援の知識・技術を習得する 目標: 意思決定が困難になる問題状況を知り、その解決に取り組むことができる
対応困難な家族へ関わり 6名	平成25年9月10日(火)	13:00～17:00	目標: 対応困難とされやすい家族について、家族との関わり方のポイントを 知ることができる実際の事例に適用し、看護実践を行うことができる

退院支援

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
退院支援アセスメント 29名	平成25年6月19日(水) 8:30～12:00	目標:退院支援アセスメント力を強化し、自己課題を明確化する
退院支援計画実践 19名	平成25年7月17日(水) 8:30～12:00	目標:退院支援のプロセスにおける具体的活動方法について学び、自己課題を明確にする
退院支援評価 18名	平成25年11月13日(水) 8:30～12:00	目標:退院支援の評価について学び、振り返りができる

皮膚・排泄ケア

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
褥瘡対策と根拠 ある褥瘡予防ケア 14名	平成25年6月24日(月) 13:30～17:00 平成25年7月23日(火) 13:30～17:00 平成25年12月10日(火) 13:00～17:00	目的:1. 根拠ある褥瘡予防ケアを理解・実施し成果をだす 2. 褥瘡予防ケアにおいて、他のスタッフと協働及び指導できる看護師にキャリアアップする 目標:1. 最新の褥瘡対策の知識を習得しエビデンスのある褥瘡予防ケアプロセスが実践できる 2. 褥瘡予防ケアに必要なアセスメント能力およびスキルアップができる 3. 褥瘡対策に関する認識をたかめ、褥瘡ケアプロセスが実践できる

救急看護

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
急変時の前兆を見抜く 50名	平成25年7月18日(木) 13:00～17:00	目的:救急看護に必要な知識を習得する 目標:患者の急変を見抜き、迅速な対応につなげることができる
急変時の対応 I 27名	平成25年12月6日(金) 13:00～17:00	目的:患者急変時の対応を理解し、状況に応じた行動がとれるようになる 目標:1. 一次救命処置の知識を振り返り、不足部分を補うことができる 2. 一次救命処置が実施できる 3. 急変時に必要なこと(役割)を理解することができる 4. 急変時に対応する準備ができる

看護補助者研修

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
診療補助員研修 106名	平成25年5月22日(水) 14:00～15:00 平成25年5月30日(木) 14:00～15:00 平成25年5月31日(金) 14:00～15:00	目的:1.今年度の看護部の目標を知る 2.チーム医療における療補助員の役割を理解する 目標:1.今年度の看護部の目標を知り理解できる 2.チーム医療における診療補助員の役割を理解し行動できる 3.診療補助員に必要な接遇について理解し、行動できる
診療補助員研修 105名	平成25年6月19日(水) 15:00～16:00 平成25年6月20日(木) 15:00～16:00 平成25年6月25日(火) 15:00～16:00	目的:診療補助員における危険予知トレーニングについて学ぶ 目標:業務を行う上での安全について学び、行動につなげることができる
診療補助員研修 107名	平成25年9月24日(火) 14:00～15:30 平成25年9月25日(水) 14:00～15:30 平成25年9月26日(金) 14:00～15:30	目的:看護補助業務の実際について学ぶ 目標:患者の安全を確保し、患者に合った清潔援助ができる
診療補助員研修 105名	平成25年10月22日(火) 14:00～15:30 平成25年10月23日(水) 14:00～15:30 平成25年10月24日(木) 14:00～15:30	目的:1.清潔援助(洗髪)について学ぶ 2.リネン類の管理(リネン管理)について理解する 目標:1.根拠に基づいた清潔援助について学び、実践に活用できる 2.リネン類の取り扱いについて理解できる
病棟クラーク研修 57名	平成25年6月3日(月) 15:00～16:00 平成25年6月5日(水) 15:00～16:00 平成25年6月6日(木) 15:00～16:00	目的:看護チームの一員であることを理解して、クラーク業務を円滑に実施できる 目標:1.今年度の看護部の目標を知り行動できる 2.病棟クラークに必要な接遇について理解し、行動できる 3.退院支援に関する書類の手続きについて理解できる
病棟クラーク研修 55名	平成25年7月23日(火) 15:00～16:00 平成25年7月25日(木) 15:00～16:00 平成25年7月30日(火) 15:00～16:00	目的:チーム医療におけるの病棟クラークの役割を理解し行動に繋げる 目標:患者問診票と入力方法について学び行動に繋げることができる
事務補助員研修 27名	平成25年5月23日(木) 15:00～16:00 平成25年5月27日(月) 15:00～16:00	目的:1.看護チームの一員であることを理解して、事務補助員業務を円滑に実施する 2.患者サービスを考えて患者対応を行う 目標:1.今年度の看護部の目標を知り、行動できる 2.事務補助員に必要な接遇について理解し、行動できる
事務補助員研修 26名	平成25年8月27日(火) 15:00～16:00 平成25年8月29日(木) 15:00～16:00	目的:看護倫理について学ぶ 目標:外来における倫理的配慮について学び行動に繋げることができる

認定・専門看護師実習受入

領域	受入人数	実習期間
がん看護	1名	平成25年5月16日～平成25年5月31日
	1名	平成25年7月4日～平成25年8月20日
	2名	平成25年7月17日
	1名	平成25年6月24日～平成25年7月5日
	1名	平成25年6月4日～平成25年6月17日
家族支援	1名	平成25年8月30日～平成25年9月12日
	1名	平成25年5月13日～平成25年6月7日
	1名	平成25年7月16日～平成25年8月9日
急性・重症患者看護	1名	平成25年8月28日～平成25年8月30日
慢性心不全看護	1名	平成26年1月27日～平成26年1月29日
急性・重症患者看護	1名	平成25年6月10日～平成25年7月12日
慢性心不全看護	1名	平成25年10月7日～平成25年11月22日

別紙(様式第4-②)

看護実践能力到達段階別研修

I 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
看護倫理1 108名	平成25年4月1日(月) 15:00～17:00	職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動できる 1.日本看護協会「倫理綱領」について 2.臨床倫理の原理・原則について
安全管理1 108名	平成25年4月3日(水) 8:30～12:00	施設における医療安全管理体制について学ぶ 1.医療安全管理体制について 2.インシデント・アクシデントについて 3.事故発生時の報告
感染予防対策1 108名	平成25年4月4日(木) 8:30～12:00	エビデンスに基づく感染予防対策の実際を学ぶ 1.感染対策の基礎知識 2.施設における感染管理体制について 3.スタンダードプリコーション
安全管理1 103名	平成25年4月9日(火) 16:00～17:00 平成25年4月10日(水) 16:00～17:00 平成25年4月11日(木) 16:00～17:00	施設における医療安全管理体制について学ぶ 1.院内の安全管理体制が理解できる 2.インシデント・アクシデント自励の報告について理解できる 3.ファントムくんの入力方法が理解できる
・医療機器 82名	平成25年10月24日(木) 8:30～12:00 平成25年10月26日(土) 8:30～12:00 平成25年10月28日(月) 8:30～12:00	目的:1.災害拠点病院の役割を学ぶ 2.人工呼吸器の機能について理解できる 目標:1.災害拠点病院の役割を知る 2.自然呼吸と人工呼吸の違いを理解し、人工呼吸器の機能を理解する

II 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
防災災害対策2 78名	平成25年5月8日(水) 17:30～18:30 平成25年5月24日(金) 17:30～18:30	目的:災害拠点病院の看護師として、防災災害対策に対する意識を高めることができる 目標:院内の防災設備について理解できる
感染予防対策2 130名	平成25年6月6日(木) 17:15～19:00 平成25年6月20日(木) 17:15～19:00	目的:エビデンスに基づく感染予防対策を理解し、実践できる 目標:感染の基礎知識・経路別感染予防策を理解する
看護倫理2 131名	平成25年8月2日(金) 17:30～18:30 平成25年8月30日(金) 17:30～18:30 平成25年9月5日(木) 17:30～18:30	目的:倫理的感受性(臨床倫理問題が生じていることに気付く力)を維持することができる 倫理的推論(それが倫理的に問題であるか指摘することができる) 目標:医療倫理・看護倫理上の問題に気づくことができる

III 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
安全管理2 42名	平成25年7月12日(金) 13:30～17:00	目的:安全管理上のリスクを軽減するための方法について学ぶ事ができる 目標:予測に基づいて適切な安全対策が実施できる
感染予防対策3 41名	平成25年9月25日(水) 13:30～17:00	目的:エビデンスに基づく感染予防対策を理解し、実践できる 目標:エビデンスに基づく感染予防の実際を学ぶ 組織的な感染管理に取り組むために必要な知識を学ぶ
感染予防対策4 26名	平成25年10月30日(水) 13:30～17:00	目的:エビデンスに基づく感染予防対策を理解し、実践できる 目標:エビデンスに基づく感染予防の実際を学ぶ 組織的な感染管理に取り組むために必要な知識を学ぶ
看護倫理Ⅲ・Ⅳ 155名	平成25年10月2日(水) 17:30～19:00 平成25年10月16日(水) 17:30～19:00	目標:医療倫理・看護倫理上の問題解決に向けて行動できる
災害看護1 19名	平成25年10月23日(水) 13:30～17:00	目的:災害発生時の看護について理解し、災害時の看護に活かすことができる 目標:防災・災害予防対策の基礎知識を学ぶ 災害発生時の院内で適切な対応を理解する
災害看護2 19名	平成25年11月18日(月) 13:30～17:00	目的:災害発生時の看護について理解し、災害時の看護に活かすことができる

IV 段階対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
安全管理3 20名	平成25年11月21日(木) 8:30～12:00	目的:所属部署内の安全に関する問題を理解し、解決策を考え実践することができる能力を養う 目標:病棟内の安全に関する問題点の抽出と解決策を見出すことができる

管理者対象

研修名・参加人数	研修日時	研修内容
主任昇格者 7名	平成25年5月1日(水) 8:30～17:00	目的:看護組織を理解し、役割を自覚する 目標:主任としての役割について学び、行動に繋げることができる
看護管理者における 対人関係能力 104名 堺・奈良病院内	平成25年6月21日(金) 17:15～19:15	目的:役割に必要な対人関係能力について学ぶ 目標:看護管理者に必要な対人関係能力について学び看護に活かす管理実践ことができる
目標管理 66名	平成25年9月14日(土) 13:00～16:00	目的:看護管理者として必要な目標管理の実際について学ぶ 目標:看護管理者に必要な目標管理の実際について学び、実践に活かすことができる

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 工藤 正俊
管理担当者氏名	病院事務部長 橋本 克己

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		患者支援センター 医療支援課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	職員課	
	高度の医療の提供の実績	医事業務課 医療支援課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学術支援課 総務広報課	
	高度の医療の研修の実績	総合医学教育研修センター	
	閲覧実績	医療安全対策課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事業務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課 患者支援センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 工藤 正俊		
閲覧担当者氏名	附属病院事務部長 橋本 克己		
閲覧の求めに応じる場所	病院棟 2階相談室閲覧室		
閲覧の手続の概要 患者支援センターもしくは医療安全対策課にて関係部署に調整し、対応している。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 総則2. 安全管理委員会3. 安全管理部4. リスクマネジャー5. 報告等にもとづく医療に係る安全確保を目的とした改善方策6. 安全管理のためのマニュアル整備7. 医療安全管理のための研修8. 事故発生時の対応9. 患者相談窓口10. その他	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 27 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 安全管理部の報告を受け、医療安全管理の検討及び研究に関する事2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに委員会によって立案された防止対策及び改善の実施状況の調査及び見直しに関する事3. 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関する事4. 医療安全管理のために行う病院長等に対する提言に関する事5. 医療安全管理のための啓発、教育、広報及び出版に関する事6. 医療訴訟に関する事7. その他医療安全に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 30 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全について2. 中心静脈穿刺手技講習会3. 安全な採血を実施するために4. 医療ガス・フィットフィックス5. 患者と医療者がともに築く医療安全6. 誤認手術～横浜市大患者取り違い事故からWHOのチェックリストまで7. 災害医療の教育8. 自己決定権と説明義務～インフォームドコンセントの真の意味9. 医療訴訟ガイドンス10. 薬剤部・中央放射線部11. 個人情報対策室・褥瘡対策室	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジャー会議等を通じて全職員へ周知するとともに、院内LANに掲載し周知を図り、改善策の徹底を図っている。また、安全管理研修参加状況の個人識別化を実施している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (11) 名活動の主な内容：	

1. 定期的に医療安全対策室会議を開催し、必要事項を管理委員会に勧告する
2. 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査
3. 定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検
4. マニュアルの作成及び点検並びに見直しの提言等
5. アクシデント・インシデントレポートの収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価
6. 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
7. 医療安全に関する職員への啓発、広報
8. 医療安全に関する職員研修の企画、立案、運営

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

④・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 近畿大学医学部附属病院の院内感染防止対策に関する基本的考え方 2. 院内感染防止対策の組織の概要 3. 感染防止対策に関する職員研修 4. 院内感染症アウトブレイク時の対応 5. 感染症情報の院内への提供と広報 6. 患者等への情報提供と説明 7. 地域連携 8. 院外への情報公開 9. その他の院内感染防止対策 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する重要事項の決定を行う 2. 院内感染防止対策指針およびマニュアルを検討し承認・周知する 3. 院内感染防止対策に関する情報を共有し職員へ周知する 4. 院内感染防止に関する職員研修計画を検討し周知する 5. 院内感染事例等の原因究明結果を報告し、対策を職員に承認・周知する 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 新規採用時の研修では感染対策の基礎について、定期研修においては針刺し等汚染事故発生状況、結核、ノロウイルス、インフルエンザなどの研修会開催時期に合わせた季節の感染症対策、および外部から招聘した感染対策の専門家による講演会を実施した。全職員が参加し、興味が持てる内容とするため、研修会講師はICTチームの医師、看護師、薬剤師、臨床技師が担当をした。 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 定期、および臨時のICTラウンド、ICTニュース、院内感染防止対策委員会、各ICTメンバーの参加している委員会、研修などを通じ、院内感染発症防止、院内感染対策の情報を発信して、啓発を繰り返し行っている。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 平成26年1月27日：平成25年度第15回医療安全研修 医薬品安全管理について 平成25年4月19日：救命勉強会 フェンタニルについて 平成25年11月15日：静脈注射認定看護師研修 薬剤について 平成25年度 薬剤部内勉強会：合計13回 <ul style="list-style-type: none"> 4月8日 各種抗菌剤の使い分け 4月17日 各種抗菌剤の使い分け 5月1日 感染症にまつわるhow to 5月20日 消毒薬の使い分け、 6月3日 抗真菌剤の特徴及び使い分け 6月17日 TDMの基礎知識 9月10日 輸液の基礎 9月24日 輸液の使い分け 10月4日 救急に強い薬剤師養成コースに参加して 10月22日 救急に強い薬剤師養成コースに参加して 11月18日 脳卒中・心筋梗塞・各種ショックの初期治療の流れ 11月25日 脳卒中・心筋梗塞・各種ショックの初期治療の流れ 3月6日 薬剤師業務の拡大と安全確保を目指して 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (☑・無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、 医薬品の安全に係る情報の取り扱い(収集、提供)、各部門における薬剤の取り扱い (手術・麻酔、救急、集中治療室、血液透析関連、画像診断、内視鏡・臨床検査、歯科領域、 輸血)、他施設との連携、事故発生時の対応、教育研修 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 情報の収集の方法 <ul style="list-style-type: none"> インターネット等を利用し、医薬品医療機器総合機構や日本医療評価機構、およびその他の医薬品関連サイトから情報を収集する。また、院内の医薬品の副作用情報については、全診療科の薬事委員(医師)を通じて定期的にその有無と詳細の確認をしている。 情報の周知の方法 <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテのメール機能を利用し、全医師・全看護師に情報配信すると同様に薬剤部HPにも掲載する。更に各種委員会を通じて情報提供を行っている。 医療安全委員会との連携 <ul style="list-style-type: none"> 医薬品に関するヒヤリハットの重要事例発生時およびその他事例全般に参画している 	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 220 回
・ 研修の主な内容：	
・ 特定7品目 ・ 新規導入機器研修 ・ デモ機 等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (☑・無)	
・ 保守点検の主な内容：	
・ 特定7品目 ・ 輸液・シリンジポンプ ・ 心電図 ・ 体外式ペースメーカー 等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
PMDA情報および厚生労働省通知 等 トラブル事例等を啓示し、注意喚起とともに啓蒙活動を行っている	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 平成26年9月16、17日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・他の医療機関向けに発送、ホームページ掲載 「診療のご案内」特集疾患、診療内容、特色、研究内容、専門医などの紹介 ・地域の住民患者向けに 「きずな（2回/年）」発行、ホームページ掲載、公開講座の開催 ・ホームページ掲載 「病院の理念」「基本方針」「安全管理指針」「院内感染防止対策」診療実績 ・内覧会の実施 「救急災害センター」のオープン	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・対診依頼 ・緩和ケアチーム等が主科と連携して診療 ・救急災害センターにてER医が初期対応を行った後に、専門診療科等へ後送	